

京都精華大学

Kyoto
Seika
University

Faculty of Art

Department of Fine Arts
Oil Painting
Japanese Painting
Sculpture
Ceramics
Printmaking

Department of Design
Visual Communication Design
Architecture
Textile Design
Cartoon

Faculty of Humanities
Department of Humanities

禁
帯
出

1991

CONTENTS

学長あいさつ	2
“開かれた大学”を目指して・沿革	5
人文学部	7
カリキュラム	8
フィールドワーク	9
カリキュラム チャート	10
国際交流プログラム	13
AVスペース	15
VOICE	16
就職	18
人文学部教員組織	19
美術学部	21
造形学科 洋画	23
日本画	25
立体造形	27
版画	29
陶芸	31
デザイン学科 ビジュアルコミュニケーションデザイン	33
建築	35
テキスタイルデザイン	37
マンガ	39
学外学習	41
VOICE	42
就職	44
美術学部教員組織	45
図書館	47
アセンブリーアワー	49
セミナーハウス	50
寮と下宿	51
奨学金	52
クラブ活動と行事	54
美術学部生作品	57

KYOTO
SEIKA
UNIVERSITY

ここには自由な空気がある



文化と芸術の時代へ

学長 笠原芳光

いま世界は大きな転換の時代を迎えています。

変動はさまざまな形であらわれていますが、そのひとつは科学技術と経済の時代から文化と芸術の時代へ、ともいうべきものです。

すくなくとも、この国を見るかぎり、科学技術は世界のトップレベルにあり、経済もまた有数の繁栄を示しています。

それによって、われわれの国家や社会が得たメリットは大きいものがあります。その反面、われわれ自身の生活や精神、そして文化や芸術はかならずしも豊かなものとなっていません。

物は満ちているが心は貧しい、というのがわれわれの状態であるとすれば、それを正していくのは知性や教育の問題であると思います。

その知性や教育を専門とし、課題としているのはなによりも大学です。

われわれ大学にいる人間の責任は重大といわねばなりません。その大学人とは教員であり、職員であり、そして学生であります。

とくに学生諸君は年齢において若く、きたるべき時代をになう存在です。彼らにこそ大きな期待を寄せたいと思います。学生はたんなる若者ではありません。大学の一員として、ひとりの知性人として行動してもらいたいものです。

年若いことはまだ未熟であるとともに、大きな可能性を秘めていることを示しています。世界の未来は一にかかって、自覚と意欲にみちた若者に、そして学生にかかっているといっても過言ではないでしょう。

これからの時代は文化と芸術の時代である

べきです。

かつて文化と芸術が絢爛と花ひらいた時代がありました。それは唐の時代であり、平安朝であり、ルネサンスであり、江戸時代であり、十九世紀西欧です。

しかし今世紀はかならずしも文化と芸術の時代ではありませんでした。それは戦争と産業の時代でした。きたるべき世紀はどうか、楽観をゆるさぬものがあります。

現代の文化の多くは表層的であり、日常化しております。それも一つの表現でしょうが、真に豊かとはいえないものがあります。

また今日の芸術はきわめて多様であり、多彩です。けれども大きな感動を呼ぶ作品は稀といわねばなりません。

しかしながら、そのことに気づき、危機感を覚えるところから、新しい展開と創造は始まるはずで、いまの状態は薄弱であり、貧困であるという危機の自覚がなによりも必要ではないでしょうか。

ところで、われわれの京都精華大学は美術学部と人文学部を有する大学です。

そして美術学部のあらわすものは芸術であり、人文学部のめざすものは文化であると言えるでしょう。文化と芸術を探求し、創造する大学であります。

われわれの大学がつねに、その自覚に立ち、使命を感じているかどうか、いささかあやぶむところがあります。しかし世界の状況と時代の動向を見きわめるなら、文化と芸術に関して、大きな役割をになっていると思わざるを得ません。

とくに学生諸君はまっさきにその課題に気づき、それにむかって奮闘してほしいものです。さらにこのような理想と主張に賛同する新しい若者が、われわれの大学に参加してくれることを願っています。

人類の文化と芸術の未来をきりひろくために、ともにあげたいものです。